



株式会社 Doog 代表取締役社長 大島 章

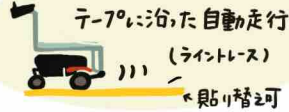
Doog 社が仕掛る運搬イノベーションの取組とは

第3回
ビジネスイノベーションセミナー
2020.11.11



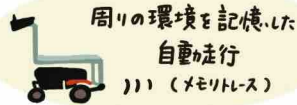
自動追従

大事にしているのは、早く市場に出して世に開くこと。求められているモノが作れているか、確かめながら進むこと。欲しい人、使いたい人のためのモノづくり。



テープに沿った自動走行 (ライトレス) 貼り替え可

現場で実際に使われて喜ばれるロボットを作りたい



周りの環境を記憶した自動走行 (メモリス)



筑波大学産バナー Doog



倉庫・工場・空港・レストラン・ホテル 図書館・建築現場などで活躍中 販売数 累計 400台 (2015~)

人が触って すぐ使わせる 使いやすいロボット

協働型 移動ロボット 「THOUZER」 サウザー

サウザーの仲間 格闘型ロボット 「GAROO (ガルー)」



シンガポール チャンギ空港 人と乗せた移動力をサポート

スピードと生産効率重視

ゼロから作る部分はなるべく少なくてあるものを使う。枯れた技術が良い。ふければ、得意な人と組む。



協業で、拡張性を創り出す

例・台車：既存品を使う

営業：販売パートナーと組む

メンテナンス：保守の会社と組む

カスタマイズ：機械・電気事業者と

なぜシンガポールに?

ありがたいことに、お客様からの引き合い。展示会がきっかけで声をかけていただいた。

シンガポールが良かった点は、全業界で生産性を高めようという熱意がすごく高いこと。新しいチャレンジができる場として進出する価値があると考えた。

事業継続していく上で大切にしていることは?

自分のやり方は、

Delivery → Cost → Quality 早く出る できる範囲で 作りにくくない

- ・やろうと思ってから2ヶ月で市場へ
- ・やれる範囲で うまいやり方を探す
- ・品質を追求しすぎるとチャンスを見逃す

成功と失敗を分ける分水嶺は、どんなところにあると思われませんか?

ロボットは失敗事例が多岐にわたる業界。作り手の思いが強く、作るのが楽しくて複雑性になりすぎてしまったりする。自分たちは少し異なる。最小の構成は何か。どこまでグローバル、どこまで国内とするか。どこを共通化し、どこを現場カスタマイズとするか。その見極め。ソフト・システムを体系化して積み上げていく。こうしたやり方で、最小単位のモノづくりをしているところかもしれない。